



森へ帰ろう

森のなかを どこまでも進み  
川を渡り 山坂抜け  
たどり着くまで  
空がひらけた場所を見つけて  
あたりの木や石を集め 枯れ草のベッド

誰も知らない 城を作る  
コーラの瓶やガラスの破片  
ずらっと並べ  
キラキラさせて虹を作ろう  
いつでも今日は 想い出とあしたの間

大切なものは 今  
誰が言ったからじゃなくて  
大切なものは 何？  
自分だけの 特別な場所

キミが好きなら聞いてもいいよ  
ボクがどこで何をしてるか  
教えてあげる  
シオカラトンボの捕まえ方  
鳥の名前 風の匂い ホントの笑い方

そうだ一緒に城を作ろう  
胸の底に閉じ込めてた 心許して  
明日の事にくよくよするな  
いつでも今日は 想い出とあしたの間

大切なものは 今 誰が言ったからじゃなくて  
大切なものは 何 自分だけの 特別な場所

夕星のひと

あなたに恋したら ひがなときめく胸  
どこに捨てましょ 川に流しましょう

こんなにそばにいて 息のかかるほどに  
近くて遥かな 夕星のひと

ただ会いたくて 想い重ねても  
何も伝えず 届かないひと

あなたの事ばかり 今日も眠れませぬ  
私の名前を 呼ぶ時の声が好き

ただそれだけで 胸の奥の方に  
小さな花の つぼみが開く

ただ会いたくて あなた 知りたくても  
遠くできらめく 夕星のひと

ただ会いたくて 恋するだけのひと  
叶わぬ想いは 空に放ちましょう

水平線まで 4.5km

水平線まで 4.5km  
思っていたより遠くはない  
ひねもす波は いつまで荒く  
仕方がなくて 釣り糸たらず

おだやかな海でなら  
だれにでも 舵はとれる  
ようそる 荒波乗り越えて  
オレが乗るのは そうだ最後の船  
大人扱いしないでいいんだ  
今日も明日も あさっても

La la la la~

喉が乾けば 井戸を掘る  
腹がへったら 弓をひく  
行き先なしでは 天気も逃げだす  
リュックひとつで すぐでかける事だ

ためいきひとつで空に 穴があいた  
曲がり続けりゃ 心が折れる  
無防備でもいい 乱暴でもいい  
ここは頑張り そうだ 4.5km

おとぎ話を聴かせてくれよ  
オレは地球の子供  
大人扱いしないでいいんだ  
今日も明日もあさっても  
La la la la~  
少しの努力だ そうだ 4.5km  
La la la la~



愛は祈り

神様 今すぐに あの人を帰して  
あたたかな 日向のような優しい微笑を  
神様今すぐに 願いを叶えて  
もう一生 願いなど 決してしないから

愛は祈り 心感じて  
愛は奇跡 風をおこす  
愛はさざなみ 寄せては返す  
永久に続く ひとの祈り  
雨上がりの空を渡る  
晴れやかな道となる

寒がりの仔猫が 体を丸くする  
思い出にひたるのには 季節はまだ早すぎる  
100年先に歌うたえ 高い梢のモズのように  
思いがけない贈り物 いつか来るさと信じていよう

愛は祈り 心感じて  
愛は奇跡 風をおこす  
愛はさざなみ 寄せては返す  
永久に続く ひとの祈り  
雨上がりの空を渡る  
晴れやかな道となる

ゼンマイ時計に恋をして

名前も知らないあの人を 恋してしまったよ  
どこから話を始めよう それはかげろうの夏

指をカメラのカタチにして 横顔 写したんだ  
君が気付いて 眉毛を少し  
持ち上げたのは 恋の始まり

君は素敵だ…僕は そんな言葉もないままに  
本気でもない たわいないキス  
悪かったかな 嘘じゃない イノセンス

知らない街でも懐かしい こうしてふたりなら  
雨が降っても笑ってられる 思ったよりも簡単さ

君の時計はゼンマイ時計 毎日巻くんだね  
君の心と重なって  
知らないうちに魔法がかかる

君は素敵だ…僕は そんな言葉もないままに  
恋してしまった 友達の恋人  
誓っていいよ 嘘じゃない イノセンス

ゼンマイ時計は 今でもずっと  
ふたりの時を 刻んでる

デイジー

遠い村の三日月 侘しい蒼さよ  
真夏の潮騒 帰れないきらめき  
かすかな風にさえ 揺れない花はなし  
ゆらりゆれてた 真冬の花

何度目かの 恋も去り  
愛する事を忘れた頃  
気づけば君 そんな風に  
僕の近くに

君と一緒にいさせて 許されるなら  
いただけてください  
僕に力 下さい

Daisies of the winter  
Daisies of the winter

ありきたりの日々でいい 百年続けば  
遥かな願いも 大樹となる  
何度も歩き続けば 道さえ出来る  
雨になって 大地濡らそう  
風になって吹こう

Daisies of the winter  
Daisies of the winter  
真冬の花



## Noise

アルコールがしこたま入った胃薬をくれ  
ビタミン入りのタバコとか  
ダイエットにいいラーメンはないのか

お前の事を馬鹿にするやつより  
お前の方がずっと凄  
それはノイズ 気にするなノイズ  
そうオリジナルで生きていこう

心が揺れれば恋の病  
それが病気ならずとかかれ  
安全地帯で震えるな  
押しでもダメならかわして攻める

幸せは心の中に  
パアッと開いた真夏の花火  
急に電話でゴハンしよって  
誘われかたたらって へらへらするな

あんな美人じゃ誰も疑う  
しかしお前もかなりイケてる  
だからノイズ 気にするなノイズ  
そうオリジナルで生きていこう

長いトンネルを抜けさえすれば  
海辺はあるかも？ ないかもね  
敗者がいてこそ勝者がいる  
免疫力上げるよヘルシーライフ

## Love for Love

Highway 霧に閉ざされ  
月さえ見えない 夜更けの Driving  
照明灯のおぼろげな灯り  
照らし出すなら 心映して

今どこにいるかって 君は尋ねる  
決まっているよ 知ってる苦  
いつの日もそう  
君の心の中にいる

Love for Love  
You take my breath away  
急に飛び出したのは  
Love for Love  
考えたかっただけ  
帰る場所なら 君の胸

君 こぶしを握って  
眠るのはやめよう  
ブルーな時は  
ふざけあって 子供になってさ  
笑えばいい 泣いてもいい

Love for Love  
You take my breath away  
急に飛び出したのは  
Love for Love  
考えたかっただけ  
帰る場所なら 君の胸

## 月のかたむく夜に

月のかたむく夜に  
港に紙の船浮かべ  
下手くそなギターポロンとはじき  
今を生きる訳を探しに

ハートにもう一度火を入れよう  
空きっ腹なら尚更似合う  
夢の種なら とうにある  
どうにかなるさ 風予報

歩き 歩き続けよう  
物語には まだ続きがある  
歩き 歩き続けよう  
自分の為に お前の為に

風が吹いてくれば  
たんぼの綿毛になろう  
ほころびだらけの帆に 風をはらませ  
どこへでもいい 新しい場所に

走り 走り続けよう  
物語には まだ終わりはない  
走り 走り続けよう

## 心よせて

遠い人に 心よせて  
会いもせず 冬の日だまり  
人知れず 空に想う  
それもまた 楽しからずや

どこに行くのか 問うてはならぬ  
流れる雲の 行方など

思った道は いささか遠い  
真実の道 信じていればこそ  
誰にいわず ひたすら歩く  
無駄に終わる ことこそなし

どこに行くのか 案じちゃならぬ  
流れる雲の 行方など

百年でも 眺められる  
他人の痛み 哀しからずや  
愛するのは 我が身ひとつ  
まつりごとの 哀しからずや

どこに行くのか 問うてもみたい  
流れる雲の 行く先を

振り返れば 昨日来た道  
心よせた 英雄がいる  
それは決して 捨ててはならぬ  
それもまた 嬉しからずや

どこに行くのか 問うてはならぬ  
流れる雲の 行方など

## 愛はぐれて

近づく程に 遠くなる  
夢見る事を 続けるドリーマー  
輝きすぎる 透明な星  
プラネタリウムの青い色

あやまちから始まる 愛もあるんだ  
そんなに悲しい言葉 何度も言うなよ

愛はぐれて さまよう 深い森の中  
夢はぐれた 小さな子供 淋しき Lonely Boy

告白の温度 覚めやらないうちに  
思い出になんて それは無理  
壊れたハート 拾い集めて  
落ちている きっと 何かを探そう

僕はまだ約束を 破ってはいないんだ  
君に渡してあげたい ものだってあるんだ

愛はぐれて さまよう 九月の三日月  
夢はぐれて 途方にくれた ひと夏だけの花

愛は火のついた 友情だって  
確か 誰かが 言っていた  
火が消えた後は 誰よりも遠い  
だからサヨナラなんて 電話をきるみたいに

遠ざかる情景 悲しみのディスタンス  
メリーゴーラウンドが回る 思い出を乗せて

愛したら 誰もが 哀しい嘘をつく  
今 会いたい 誰より君に ひと夏だけの花



## 笑って

夢なら覚めずに そのままで  
水面に浮かべて 置きなさい  
そのうち愉快的な 風が吹き  
小さな帆を張り 走るでしょ

涙は流さず そのままで  
窓辺のひなたに 置きなさい  
悩みの種なら 庭にまき  
大きな果実に 育てましょ

笑って 笑って  
いつでも 笑って

雪なら迷わず 窓を開け  
真冬の静けさ 感じましょ  
寒けりゃあたりを かけまわり  
白い吐息を 愛しましょ

春にはつぼみも 花になる  
さえずるヒバりに なりましょ  
もこもこ綿雲 空さえも  
あなたの味方に なるでしょう

笑って 笑って  
いつもね 笑って  
笑って 笑って  
いつもね 笑って